

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 2021年12月28日

事業所名: アスロンジュニアグラベル

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指導訓練室と知育室を併設し、各児童の状況やプログラムにより内容を分けて使用している。	①はい・85%②いいえ4%③わからない8%④どちらともいえない4%の回答。体育の内容によっては狭いように感じる、とのご意見があった。	他事業所よりゆとりある療育スペースを有するも、利用人数によりその確保が難しい時もある。運動器具等の整理整頓の徹底を図る。	
	2 職員の適切な配置	専門性をもった職員を配置し、支援に努めている。	①はい・92%③わからない・8%の回答。	資格に応じたプログラムを担当するように配慮し、質の充実を目指す。	
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	建物に入る前に階段があるが、建物内はバリアフリー化がされており、視覚支援の工夫もしている。	①はい・73%③わからない12%④どちらともいえない・15%の回答。扉が全開なのが気になるのご意見があった。	さらにわかりやすい視覚支援の工夫を行い、スムーズな支援が実施できるようにする。	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	日々整理整頓に徹底し、快適に過ごせるように生活空間を整えている。	①はい・92%④どちらともいえない・8%の回答。	細部まで行き届いた整理整頓に努める。	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	すべての業務においてPDCAサイクルを徹底している。		現在は毎日実施、積極的な意見交換がなされているが、より精度の高いものを目指す。	
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施している。		外部評価の必要性を理解し、積極的に取り入れる。	
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	月に1回、研修を実施している。外部機関が開催する研修に各々で参加している。		定期的(月に1度)な研修は実施しているが、自発的な各個人での研修参加の機会を増加させたい。	
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	定期的な面談(利用者・保護者)により、利用者の現状・課題に沿った計画の策定を行っている。	①はい・92%④どちらともいえない・8%の回答	他の業務に追われ遅れがちになるので、円滑な処理ができるように業務の効率化を図る。	
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	曜日により小集団療育と集団療育を織り交ぜ、利用者の課題や意向に沿った計画を策定している。		実践中。特に集団指導時のリーダー育成について工夫を重ねる。	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	保護者との面談でヒアリングした内容をもとに、各児童の特性に応じた細かい支援内容を記載することに努めている。	①はい・85%③わからない8%④どちらともいえない・8%の回答。	毎月の予定表にて、療育内容を公開している。保護者のニーズも取り入れていきたい。	
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	各児童の課題に沿った支援の実施に努めている。週ごと、月ごとに独自性をもたせた支援内容の設定・工夫を行っている。	①はい・85%③わからない8%④どちらともいえない・8%の回答。	適切かつ独自性、創作性のあるものを構築する。	
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	土曜日や長期休暇中のプログラムなど、季節や暦に沿ったチーム全体で活動できる取り組みを行っている。		季節、暦などによりそれに合わせた取り組みを行っている。前月には実施計画を立案、チームで検討している。さらに安全・安心な取り組みを行う。	
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	利用時間に応じた支援内容の設定・工夫を行っている。	①はい・100%の回答。	それぞれにおいて、療育時間に合わせたプログラムを作成している。さらに生きる力をつけるための療育に取り組む。	
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	年間計画・月次計画を作成し、プログラムが固定化されないように工夫を行っている。		年間計画、月次計画を作成。常に新鮮なものを提供するようにする。	
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日支援前に実施している。		毎日支援前に実施。さらに予測と見立ての向上を図る。	
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	毎日支援後に実施している。		支援後のフィードバックは毎日実施。見逃しがちなところをチームで検討する。	
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	支援記録や各児童の活動を日々記録している。		支援記録や各児童の活動を日々記録。さらに記録内容に充実を図る。	
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6ヶ月ごとに、各児童との面談、保護者との懇談を実施している。		6ヶ月ごとに、各児童との面談、保護者との懇談を実施。ニーズの確認を行う。	
	関係機関	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	積極的な参加をしている。		積極的な参加をしている。さらに密な連携が必須。
		2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	整形外科医、小児科医との連携を行っている。		整形外科医、小児科医との連携を行っている。学校との連携を課題としている。
		3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	各児童の主治医との連携が書面上では行われているが、直接話を聞く機会をつくる。		各児童の主治医との連携が書面上では行われているが、直接話を聞く機会をつくる。
4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有		機会があるごとに情報共有は行っている。		機会あるごとに情報共有するものの、さらに積極的なアプローチが必要。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
との連携	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	必要に応じて情報提供を行っている。	情報提供はするものの、さらに密な関係の構築を行う。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	タイムスケジュールにあう限り、積極的な参加を心掛けている。	タイムスケジュールにあう限り、積極的な参加を心掛けている。保護者とも連携を取りながら各機関との関係を密にする。	
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	交流の機会はほとんどなく、それぞれを利用する児童として、その機会を得るよう努力する。	①はい・19%②いいえ・1%③わからない・73%④どちらともいえない・4%の回答。	交流の機会はほとんどなく、それぞれを利用する児童として、その機会を得るよう努力する。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域交流の場への積極的参加と、事業所内でのイベント等を計画する。	①はい・19%②いいえ・1%③わからない・73%④どちらともいえない・4%の回答。	地域交流の場への積極的参加と、事業所内でのイベント等を計画する。
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援内容は細かく案内できている。負担額について、詳細な説明を行う必要がある。	①はい・92%④どちらともいえない・8%の回答。	支援内容は細かく案内できている。負担額について、詳細な説明を行う必要がある。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	保護者に対して細かな説明等は行っている。その成果についてさらに詳しい説明を行う。	①はい・92%③わからない4%④どちらともいえない・4%の回答。	保護者に対して細かな説明等は行っている。その成果についてさらに詳しい説明を行う。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	チーム全体で実施できるだけの専門性を、スタッフ各自が持つよう支援力を身につけるよう努めている。	①はい・58%②いいえ・8%③わからない・27%④どちらともいえない・8%の回答	チーム全体で実施できるだけの専門性を、スタッフ各自が持つよう支援力を身につける。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時などの時間を活用し、保護者とのコミュニケーションを密に取れるように努めている。	①はい・92%③わからない4%④どちらともいえない・4%の回答	保護者とのコミュニケーションを密に取り、その内面に迫ることができるように、療育スキルを向上させる。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談があれば即対応を心掛けている。	①はい・100%の回答。	相談があれば即対応を心掛け、信頼関係を構築する。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	月1回実施している。	①はい・85%の回答③わからない15%の回答。まだ参加したことないが機会があれば参加したいのご意見あり。	月1回実施。参加者のさらなる増加を目指す。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応マニュアルの順守を徹底している。迅速に対応できるよう努めている。	①はい・65%③わからない27%④どちらともいえない・8%の回答。	苦情対応マニュアルを徹底。状況に応じた対応力を身につける。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	児童や保護者の想いを受けとめ、風通しの良い環境づくりに努める。	①85%③わからない・8%④どちらともいえない・8%の回答。	児童や保護者の想いを受けとめ、風通しの良い環境づくりに努める。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	SNSや療育支援ツールを用い、活動内容の告知や写真での活動報告など、積極的に実施している。	①はい・96%④どちらともいえない・4%の回答。	行事予定などの発信はできているが、会報等の発刊を目指す。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	入会時に十分な説明と保護者の意向を確認し遵守しております。個人情報関連の書類は鍵付きの場所に保管している。	①はい・88%③わからない・12%の回答。	不用意や不注意による漏洩がないように、危機管理意識を高める。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを作成しており周知徹底している。	①はい・65%③わからない27%④どちらともいえない・8%の回答。	各マニュアルは作成されているが、保護者への周知については十分でないことが課題。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難場所は確認しており、定期的に訓練も行っている。	①はい・35%②いいえ・8%③わからない・54%④どちらともいえない・4%の回答。	年間2回の実施。その情報が伝わっていないことが課題。周知し徹底する。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	外部機関が開催する研修に各々で参加している。		会社や事業所において研修を実施し、理解に努めている。さらに継続的な研修が必要。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	十分な説明と保護者の意向を確認しより良い支援に繋げるよう努めている。		状況に応じた個人の判断における場合がある。保護者との詳細な共通理解を行う。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	各児童の情報を共有し、適切な対応に努めている。		一覧表を作成し対応している。新しい食品など使用する場合は、十分な共通理解のもと、取り組みを行う。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	各マニュアルを作成しており周知徹底している。		ひやりはつと事例集は作成するものの、その基準が明確でないところがある。基準の明確化に取り組む。